

『フィルター本当に安全？放射性物質、除去性能に疑問も』
『環境省実証データなし批判黙殺』『焼却ありき密室で決定』
『「見切り発車」の災害がれき処理』
『広域処理は問題の山』『住宅再建・原発補償が優先』
『「がれき、復興足かせ」疑問』『現地焼却すれば雇用も』

以上は、東京新聞の広域処理批判記事の見出しを集めたものです。

広域処理の問題点が次々と明らかになるのに呼応して、受け入れを求められている全国の自治体でも、首長や議会が反対の声をあげるケースもだんだん目立ってきました。調べてみれば本当におかしな政策なのです。

これに対して、環境省はどう応答したのでしょうか。なんと、環境省は中身のある応答は一切せずに、メディアを使って大宣伝キャンペーンをはじめたのです。その費用、10億円を超えると言われていました。このお金を現地で使えば、どれほど支援になったのでしょうか。ひどい国ですが、それだけに環境省も反論できないことがわかっているのだと思います。

「広域処理は輸送費の無駄」「災害廃棄物の危険性を無視しない」
「本当に必要な復興支援を」と政府に求めていきましょう。

ACTION!!

- ① 広域処理に反対する全国署名がはじまっています！
<http://houshanou-shomei.seesaa.net/>
- ② お住まいの自治体に「受入れやめて」と電話で伝えよう！
代表電話番号にかけて「広域処理担当をお願いします」、これで担当のところまでつないでくれます。
- ③ 家族や友人にこの話を伝えて！
環境省からの宣伝しか知らない人もたくさんいます。
「本当に被災地支援になるの？」と問いかけてみよう。

作成責任: モン=モジモジ mail: mon@mojimoji.org

「震災がれきの受け入れ」が被災地復興の邪魔をします。



「被災地支援のために、被災地のがれきを全国で受け入れよう」、そんなことがテレビや新聞で叫ばれています。がれき受け入れに反対すると「被災地を見捨てるのか！」と怒られたりします。

でもちょっと待ってください。がれきの受け入れは本当に被災地のためになるのでしょうか？復興支援になるのでしょうか？

池田こみち・環境総合研究所副所長のコメント

「被災地に何度も足を運んでいるが、『がれきがあるから復興が進まない』という話は聞かない」

「高台移転には、沿岸部のがれきは全く障害にならない。がれきが復興のさまたげになっているかのような論調は、国民に情緒的な圧力を加えているだけだ」

「放射性レベルが低いというのであれば、がれき処理専用の仮設焼却炉を現地に作って処理するのが最も効率的だ。雇用も生まれる」

(東京新聞2012年2月15日の特集記事より)

あれれ？
なんだかおかしいぞ？



復興のために、広域処理(ガレキの受け入れ)に反対しよう！



地元にはこんな意見もあります。

戸羽太・陸前高田市長（岩手県）

「陸前高田市内にがれき処理専門のプラントを作れば、自分たちの判断で今の何倍ものスピードで処理ができると考え、そのことを県に相談したら、門前払いのような形で断られました」

伊達勝身・岩泉町長（岩手県）

「無理して早く片付けなくてはいいないだろうか。山にしておいて10年20年かけて片付けた方が、地元で金が落ち雇用も発生する。元々使っていない土地がいっぱいあり、処理されなくても困らない。税金を青天井に使うと全国に運び出す必要がどこにあるのか」

① 被災地の危険をほっとかないで！

東北各地でも災害廃棄物の処理が進んでいますが、フィルターなどの設備が不十分な状況で排気から大量のセシウムを排出している焼却炉もあります。これらは本来、東京電力と国の責任で安全対策を施すべきです。しかし、「安全」と言い張って広域処理を進めているためか、環境省はこれら被災地で生じている危険性にまったく対処しません。

「被災地が大変だから仕方ない」「痛み分けや」、そんな風に言う人もいます。しかし、私たちが危険な施策を受け入れることは、「被災地でも同じ危険は受け入れよ」と言うのと同じです。

③ そして、やっぱり本当に危険なんです……。

放射性物質の危険性もちろんありますが、それに加えてヒ素、水銀、アスベスト、PCB、六価クロムなど、今回の津波による災害廃棄物では、実にさまざまな有害物質による複合汚染の危険性が指摘されています。本来、専門の産廃業者にとっても難しい廃棄物。こんな危険なモノを「全国の一般の焼却炉で環境アセスメントも住民説明もなしに燃やす」という、元からたいへんに乱暴な政策なのです。

危険なものは危険。このことをハッキリさせることは、汚染に対する国のルーズな姿勢を拒否すること。

それが私たち自身だけでなく、被災地の人々をも危険から守ることになります。

広域処理をやめれば、ガレキの輸送に無駄遣いされるはずだったお金で大きな財源ができます。

そうすれば、安全性の向上や被害の補償など、本当に役に立つ施策にお金を使うことができるはずです。

広域処理 = 莫大な輸送費の無駄 が復興の足を引っ張ります。

② 復興予算を横取りしないで！

ある試算によれば、広域処理を行った場合、仮置き場搬入後の最終処分までの費用は1.5倍にもなるとされています。広域処理の費用が高くなる最大の理由は、その莫大な輸送費です。概算で、額にして1000億円近くにもなります。

仮設焼却炉の設置など、現地処理を支援すれば雇用にもつながります。また、現地で行っている危険な焼却処理に対する安全投資も必要だし、その他、現地に直接お金を落とす政策＝直接に復興を支援する政策はたくさんあります。広域処理で無駄遣いしてる余裕はありません。